Note Book.

藝經閒民

研究

昭和十二年十二月

Y. H & Co

本間文庫
文庫 14
A 112
2

文庫14
A112
2

1269
2191
202

学生よりの注文

一、文学に於ける快楽的要素の地位、

一、個々作家の鑑賞と彼の分解

藝術問題研究

明治四十二年十月一日より

第一回

小説と作家の主観との関係

一、主観客観の根本的意義（[illegible]美学講義[illegible]講義参考）

二、小説と主観（作家）との関係に関する西人の論

三、同上日本現代の文学者の論

四、作物に見はれたる事実

学生より問題を徴する事

（一）、主観客観の浩義論
（二）哲学方面より
（三）心理学方面より
（四）評論方面より
其の解釈用例を集めしむ

日本の作家

×田山花袋
×島崎藤村
×夏目漱石
×正宗白鳥
×永井荷風

西洋作家

×ツルゲーネフ
×モーパッサン
×トルストイ
×ゾラ
×ゴルキー
チエホフ
カウンス

四、何んなものを如何なる方式で表現してゐるか

五、一般文藝と其作家の主観の干係に関する論評

六、結論、

塚本－西摩
評伝
富永－哲学
上の理念上
の主義

日室間への役割、

渋沢－田山花袋（羅生）

倉木－島崎藤村

加納－~~夏目漱石~~－哲学方面
白樺の評論

大友－正宗白鳥
日高　夏目漱石

落合－永井荷風

秋山－チェホフ

小林－ツルゲーネフ－心理学方面

真下－モーパッサン、

主客観の五形式

第一 通俗常識的　第二 狭義常識的

第三 哲学的　第四 心理学的

第五 文藝的　（以上の内四つの中に十年 以後文学済ましたらば）

第五 文藝的

映写、
要素化
暗示
解釈
創作
[struck]

以上の如き方面の心理学的区別が従来の文芸論の
基礎とせられて居る即ち
以上の種々の区別を文芸上に当てはめて見ると
第一の常識的区別は直に（自分と自分以外のものとで考へられる）自叙体又は自白
告白と[struck]の他叙体[struck]描写
との区別になる
第二の常識的区別は[struck]心と物とであるから、

?、

[struck]的と実行的とを分けて
純理的が更に
映写的、解釈的、
[struck]要素化
的、暗示的等
に分けられる

[struck]別　心理的描写と外面
的描写と云ふやうな区別になる
第三の[struck]理的区別は実験的が実践（存）
的と[struck]（相）実際的と（理想的と）に別れて其の何れかと云
ふに藝術全体が別れ得る又主観が[struck]
[struck]的とに分かれて其の何れも藝術全
が分れ得る。
第四の心理的区別は客観が実験的、想像的、
[struck]的に分かれ、主観が情緒的、

論定

[illegible]他律的、自律的、強制的に定められる、

状況
田山花袋、生、つまり精神的な[illegible]として、
「全体の[illegible]保つて来ましてつゝ作し得るならば[illegible]
生の現象として人生観也、之は甚だ深刻には感じられぬ
としての外に[illegible]しようとはならぬ。ただ劇的なるものを
取り集めて書いて」「人生の一としてそれであつて描に
[illegible]のあるを知れば見ての[illegible]即ち[illegible]
のあるを書くに[illegible]」「平面描写である[illegible]

ならぬくの外面をおしく丈なら作品は言へぬ
ゐる。之は極端の云ふ人物は在来のうけ[illegible]
強い極端の人物は心理描写も用ひぬ
ずるをえなくて主観を描く場合のあるは之が
殊に[illegible]風では「亡ひけりしより哀れさを語つてゐるの[illegible]
[illegible]にも作者の主観があらはれてゐる」「古葉の[illegible]
哀れさを語つて」「何らせ純になりし果敢なき[illegible]
「斯うして人は死し世は移りくのである」「以上は生の
果敢なきの主観也」「[illegible]観は観、子は子である

とくに主観、客観は人を悲しくするか、併し之が世の
中にあるのだ。○ 以上二主観が作中に見えてゐる
此内後者は作中余りも大の様としてゐる、前者は更
に関係が薄い○即ち作は此主観を見ずにしてそれ
ないのではないかと見える○併し一方から言へば大き
であるのの生の発展として其の内容の一として
ではあるまい○
我は反対、思ふに吾等人生は厳で
あるとして了ふ○それともすな人は幸福を知つて

逃れやうとするけれども逃れられぬ、其間○作中で作
者は常に叫んでゐる、静かでなし○も欲、矛盾
言はば親子保つからこそ生まれてゐる ○
説明材料ではあるまい、直接説明しようする○
我ら人生は苦痛で満んで苦しい、ともすると乍ら
生きて終ふてゐる、斯くをくりて抜えられぬ、自
由はないとて厭世観が基礎となつてゐる○
驚かるるのは○苦しい叫きから出たる主観として
自然極端で鉄砲な調子がある。○ もう少しく

理性を加へて表観して書いて欲しい。
第三節は表方は違ふが、其の出発点は性格と文学論
之は同じく、左に繹者は己に説明したのだ
○経の印題と文化は自己思索の中の一芸の具体化
ひ得る○此方が書きよいとする西宮呼の方から
欲しい○

生子的態度に見はれた芸術家の主観

(1) 如何にして入り来るか
第一、機 対象の選択の上に於いて
第二、~~抒情的、概念的~~ 感傷的の平淡中は 叙法に於いて
第三、~~純粋的描写~~ 人種描写 性に於いて

(2) 如何なるものが入り来るか
第一、~~人世~~ 文化者 人世の解釈即ち人生観、
第二、~~世界観には~~ 論理的認識及び倫理的自由の感情、
第三、~~各種的には~~ 本能的には 各種の内面の心理的作用

佐々木、藤村、

花袋

青春の意之、女性をかく、は主観 ○ かきかへ三ヶ月之作も

○ 客観の力で主観が出る ○ 作家自身の経験

を抑圧しるとは限らぬ、客観により、而して客観に主観

に加味する ○

たうかん

たうかんの中で女を描かれ時代の中心也 ○ 女のたくましさ ○

客観の多子少し ○ 作家の経験の多分な当時

自然、客観描写且併描写 ○ 自己は飽

小ちゃい主観、色彩すこしの主観 ○

弟子

弟子と師匠の交際 心持の ○

全体に悦んで調子がよい、又裏に於いて調子あり

以下
32 丁
白紙

裏表紙より

我的研究科

…成させ…エ古い器具でぎりぎりに[illegible]でならぬ（ト）せひは具 一句

じおたし拡散的に言つてのみ人々の形ははしはならら

子乃形にもこはなしこはなくぬが際之考を且に成し上もよ

て来たが二三の信意を去って注意をすまかして

別として更に妻は如き国作との感的観念で

也覚え了、泳ぶ是乞者、居つ之其、却之は不流

[illegible] 遠 [illegible]

国語研究科（昭十三年記）

一、実際的

一、文章の事

アクセントある文（力ある文）、速い文、要領な文、[illegible] 文章作の要、

漢字、仮名づかひ（言文行ひ等も）の事

一、興味の涵養す事、

一、何でも読み又は見て精確に要点を掴んで置く事

一、我が作品の全部を読む事

日本新聞研究

~~一、研究項目~~
~~一、論説の筆者、文体、題目、傾向、~~

一、紙面の数及配り方の統計及其理由、優劣等、

総体の部

一、~~論説~~論説の筆者、題目、文体、~~傾向~~傾向等の

統計~~の~~批評

及批評

一、紙面の文字趣味並娯楽趣味の統計~~及~~批評

~~一、政治経済記事等の記事~~

一、各紙の特有の記事の統計及批評

一、広告の種類多寡、種類、体裁等の統計

統計及批評

(一) 実際的教授法的の事（十一頁ヨリ）

(1) 時との制限

(2) 学級生徒の制限（学級数の事）

(3) 中心ニ依ル実来事

(4)

(二) 許多も把トし実を区別

時に有りの区域を教授し居り来るべし

残は各お学級残も用ふべし